

令和7年度天皇誕生日祝賀レセプション 野口大使挨拶

2026年3月10日 於大使公邸

本日は、令和7年度天皇誕生日祝賀レセプションにお越し頂き、誠にありがとうございます。私が駐ブラジル大使として初めての天皇誕生日祝賀レセプションを、皆様とともに開催できますことを大変嬉しく思います。

本日のレセプションは、2019年に即位され、先月2月23日に66歳になられた、第126代・徳仁（なるひと）天皇陛下の御誕生日を祝して開催するものです。天皇陛下は、すでにブラジルを三度御訪問されています。最初は1982年に国際親善のため、二度目は2008年に日本人ブラジル移住100周年の機会に、そして三度目は2018年に世界水フォーラム出席のためです。このように陛下は、ブラジルとは深いつながりをお持ちです。

昨年は、日本ブラジル外交樹立130周年の機会を捉え、3月にはルーラ大統領が国賓として訪日しました。徳仁天皇の下ではコロナ禍後初の国賓であり、日本がブラジルを非常に重視しているところが

お分かりいただけたでしょう。両国が今後5年間で取り組むべき「戦略的グローバル・パートナーシップ・アクションプラン」を採択したほか、両国首脳と経済関係者約500名が参加する日・ブラジル経済フォーラムが開催されるなど、両国経済関係を発展させる大きな契機となりました。また、6月には佳子内親王殿下がブラジルを御訪問され、約270万人と推計される日系人の皆様を始めブラジル国民の皆様との間での友好親善を一層強化する機会となりました。

経済面でも、日本とブラジルは長年に渡る協力関係があります。現在ブラジルでは約700社の日本企業が活動し、2024年以来、日本企業が436億レアルを超える対伯投資を発表しています。また、昨年はブラジルからの訪日観光客数が過去最高を記録しました。特に4月から10月まで開催された「大阪・関西万博」には、ブラジルの各州から多くの経済ミッションや旅行客の方々が来場されました。加えて、昨年12月には、メルコスール議長国であったブラジルの協力の下、「日・メルコスール戦略的パートナーシップ枠組み」が立ち上がり、今後、貿易・投資を含む将来の経済連携に向けて協力を強化しています。

また、高市政権が経済安全保障を重視している中、日本政府の鉱物

資源開発機関である JOGMEC がゴイアス州とレアアースを含む重要鉱物資源開発協力に関する覚書を結ぶなどの協力が進んでいます。更に、ブラジルバイオ燃料と我が国のモビリティ技術との組み合わせを第三国に展開する取組も進んでいます。

本日のレセプションでは、日本関係企業が自社製品・サービスを展示しておりますので、ご紹介させていただきます。皆様からみて右側では、JFC Tradbras 社及び辰馬本家酒造が日本酒の試飲を提供しています。いずれもブラジルで購入いただける銘柄です。また、ロート製薬のブースでは、同社の目薬をお試しいただけます。

皆様から向かって左側では、トヨタに新型ヤリスクロスを展示していただくとともに、MACNICA が AI による生産ライン管理システムを、Kanaflex がパイプやホース等の製品を紹介しています。多様な展示をぜひお楽しみください。

本日出展している日系企業に加え、ブラジル中に日系企業が投資していますが、日本政府は対日直接投資を増やすための多くの施策を実施していますので、ブラジル企業が一層日本に投資することを強く願っています。

2026年は、近年の要人往来で醸成された機運を大切にしつつ、これまでに両国間で確認された共通の目標を達成するために行動する年になります。ブラジルとの特別な関係を更に強固なものとするよう、日本大使館は、政治・経済面に加え、環境や科学技術、防災、人的交流等の幅広い分野で連携すべく、力を尽くして参ります。これからも皆様のご支援のほど宜しくお願いします。

そして、今年の行事で忘れてはならないのはサッカーの世界カップです。6月から北米で開催されるサッカーワールドカップを楽しみにしています。決勝戦が日本対ブラジルになることを期待していますが、二国間関係を考えると結果は引き分けでなければなりませんね。いずれにしても、両国の健闘を祈っています。

最後に、天皇陛下のますますの御健勝と皇室の更なる繁栄、日ブラジル関係の更なる発展を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)